ロバート・トレヴィーノ（指揮）

Robert Treviño, conductor

メキシコ系アメリカ人のロバート・トレヴィーノは新世代の最もエキサイティングな指揮者の一人。現在、スペインのバスク国立管弦楽団の音楽監督、イタリアのRAI国立交響楽団の首席客演指揮者を務めている。

2024/25年シーズンのハイライトは、ミネソタ管弦楽団、読売日本交響楽団へのデビューや、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、ストラスブール・フィルハーモニー管弦楽団、バーゼル交響楽団、スイス・イタリアーナ管弦楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、ボルティモア交響楽団への再登場。バスク国立管やRAI国立響との録音プロジェクトにも取り組んでいる。

トレヴィーノはこれまでに、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、シュトゥットガルト放送交響楽団、NDR北ドイツ放送フィルハーモニー交響楽団、ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団、MDR交響楽団、バンベルク交響楽団、ウィーン交響楽団、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、パリ管弦楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団などを指揮。クリーヴランド、ボルティモア、サンフランシスコ、シンシナティ、ユタ、トロント、デトロイトなど北米の多岐にわたるオーケストラ、さらにはサンパウロ交響楽団、NHK交響楽団、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、チャイナ・フィルハーモニー管弦楽団、ロシア・ナショナル管弦楽団、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団などに客演している。ライプツィヒ・マーラー音楽祭、ミラノ・マーラー音楽祭、エネスク音楽祭、プッチーニ音楽祭、インターローケン音楽祭など著名な音楽祭への登場も多く、チューリヒ歌劇場、フェニーチェ劇場、ワシントン・ナショナル・オペラでも指揮している。

オンディーヌ・レーベルからリリースしたベートーヴェン交響曲全集、2枚のラヴェル作品集、ラウタヴァーラのヴァイオリンと管弦楽のための作品集、レスピーギのローマ三部作はいずれも絶賛され、知られざるアメリカ人作曲家の作品を集めた『アメリカの眺望』は英Presto Musicの2021年最優秀レコーディング賞を受賞したほか、グラモフォン賞にもノミネートされた。2024年秋には同アルバムの第2弾が発売。バンベルク響とのブルッフの交響曲全集（CPOレーベル）も多方面から高い評価を得ている。トレヴィーノの録音はこれまでに世界各地の主要音楽誌から15を超える賞を受けている。

2013 年12月、ボリショイ劇場での新演出によるヴェルディ《ドン・カルロ》を急遽代役で指揮し、大きな注目を集めた。ロシアのメディアは「モスクワにおけるヴァン・クライバーン以来のアメリカ人の成功」と報じ、その後トレヴィーノは「新演出作品の最優秀指揮者」としてゴールデン・マスク賞にノミネートされた。

新作の委嘱や初演にも積極的で、ジョン・アダムス、フィリップ・グラス、ソフィア・グバイドゥーリナ、ジョージ・ウォーカー、ジェニファー・ヒグドン、アンドレ・プレヴィン、オーガスタ・リード・トーマス、シュラミト・ラン、ラモン・ラスカーノ、ジョン・ゾーンなど、同時代を代表する多くの作曲家の作品を指揮している。